

Sun Storage Common Array Manager

ソフトウェアリリースノート Release 6.9.0 Update



Part No: E38919-01
2012 年 12 月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS. Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

1 Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアリリースノート	5
この更新の新機能	5
ソフトウェアの入手方法	6
製品情報について	6
ソフトウェアの内容	7
セキュリティに関する注意	7
オプションの上級機能のライセンス	8
90 日間評価ライセンス	8
システム要件	8
サポートされるアレイ	9
サポートされる Web ブラウザ	9
ブラウザのパフォーマンスのためのベストプラクティス	10
サポートされる言語	10
パッチ	10
サポートされるオペレーティングシステム	11
ドキュメント	12
ファームウェア	13
2500 アレイのアップグレード	13
VMware ESX 4.1 の 2500 アレイのサポート (ファームウェア 07.35.55.10 以降)	14
6540、6140、および FLX380 アレイのアップグレード	14
J4000 アレイ	14
Sun Blade 6000 ディスクモジュール	14
Sun Storage F5100 フラッシュアレイに関する注意	14
サポートされる拡張モジュール	15
重要な修正	18
既知の問題	18
アレイに関する問題点	18
構成に関する問題点	22

ドキュメントに関する問題点	26
ファームウェアアップデートに関する問題	27
インストールとアップグレードに関する問題点	29
上級機能に関する問題	29
Linux における問題	30
Solaris に関する問題点	32
Windows に関する問題	33
サポートへの連絡	34

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアリリースノート

このドキュメントには、オラクルの最新の Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアをダウンロードする方法と、CAM 6.9.0 製品リリースの新機能、関連ドキュメント、システム要件、重要な修正、既知の問題などの情報が記載されています。

インストール、構成、およびその他の手順については、[12 ページの「ドキュメント」](#)を参照してください。

このリリースノートは、次のセクションで構成されます。

- [5 ページの「この更新の新機能」](#)
- [7 ページの「セキュリティに関する注意」](#)
- [8 ページの「オプションの上級機能のライセンス」](#)
- [12 ページの「ドキュメント」](#)
- [8 ページの「システム要件」](#)
- [13 ページの「ファームウェア」](#)
- [15 ページの「サポートされる拡張モジュール」](#)
- [18 ページの「重要な修正」](#)
- [18 ページの「既知の問題」](#)
- [34 ページの「サポートへの連絡」](#)

この更新の新機能

ファームウェアパッチによって、次の製品更新が提供されます。

- Sun Storage 2530-M2、2540-M2、6180、6580、および 6780 アレイファームウェアの更新 (07.84.44.10)
- 4G バイトキャッシュによる最大 192 ドライブ/2540-M2 アレイのサポート (アップグレード手順については、「サービスアドバイザ」を参照)
- 2540-M2 アレイのデータ複製サポート (アレイあたり 16 ボリューム)
- 2530-M2 および 2540-M2 アレイあたり最大 128 ストレージドメインまでサポートを強化

- 2530-M2 および 2540-M2 アレイあたり最大 512 ボリュームコピーまでサポートを強化
- 2530-M2 および 2540-M2 アレイの 90 日間パフォーマンスエンハンサー評価ライセンス
- 2540-M2 アレイの 90 日間データ複製評価ライセンス
- Solaris、Linux、および Windows ALUA パスフェイルオーバーサポート

ソフトウェアの入手方法

My Oracle Support (MOS) から最新パッチをダウンロードします。パッチのダウンロード手順の詳細は、MOS で入手できるナレッジ記事 1296274.1 を参照してください。

- Common Array Manager (CAM) ソフトウェアおよびパッチ ID 1296274.1 のダウンロード方法

表 1-1 プラットフォームおよびファームウェアパッチ ID

プラットフォームパッチ ID	オペレーティングシステム	ファームウェアパッチ ID	オペレーティングシステム
147416-xx	Solaris SPARC	147660-xx	Solaris
147417-xx	Windows	147661-xx	Windows
147418-xx	Linux	147662-xx	Linux
147419-xx	Solaris X86		

注- 各アレイは、1 つの CAM 管理ホストのみで管理するようにしてください。管理ソフトウェアを複数のホストにインストールして同じアレイを管理すると、CAM でレポートされる情報に不一致が発生する場合があります。

製品情報について

- インストール、構成などの詳細については、[12 ページの「ドキュメント」](#)を参照してください。
- 最新のソフトウェアアップデートについては、[10 ページの「パッチ」](#)を参照してください。
- アレイファームウェアの詳細の入手、および Common Array Manager ソフトウェアとパッチのダウンロードの詳細については、<https://support.oracle.com/CSP/main/article?cmd=show&26;type=NOT&26;doctype=HOWTO&26;id=1296274.1> を参照してください。

- My Oracle Support のコミュニティで、Storage Disk 6000 および 2000 シリーズ RAID アレイについて、オラクルのエキスパートや業界の仲間とディスカッションに参加したり、ディスカッションを開始したりすることもできます (https://communities.oracle.com/portal/server.pt/community/storage_disk_6000_and_2000_series_raid_arrays/465)。

ソフトウェアの内容

表 1-2 に、このリリースに含まれるソフトウェアのバージョン情報を示します。

表 1-2 Sun Storage Common Array Manager の内容

タイプ	バージョン
Sun Storage Common Array Manager	6.9.0.20
Oracle Java Web Console ソフトウェア	3.1
Oracle Java 2 Software Development Kit	1.6 u20
ファームウェアファイル	13 ページの「ファームウェア」を参照してください。
リモートスクリプト CLI クライアント	2.1.4

セキュリティに関する注意

このセクションでは、セキュリティの脆弱性 CVE-2012-4681 (Sun Storage Common Array Manager Software 6.9 (CAM 6.9) の一部としてインストールされる Oracle Java SE 6 Update 20 に適用) について説明します。この脆弱性は、「Oracle Security Alert for CVE-2012-4681」(<http://www.oracle.com/technetwork/topics/security/alert-cve-2012-4681-1835715.html>) でレポートされており、信頼できない Java Web Start アプリケーションや信頼できない Java アプレットで悪用される可能性があります。

CAM 6.9 は、Java SE 6 Update 20 をプライベート CAM ディレクトリにインストールして、構成を実行し、機能を監視し、BUI および CLI ユーザーインターフェースを提供します。これらの機能は、アプレットではなく Java SE アプリケーションとして実装され、CVE-2012-4681 に記載されているアプレットセキュリティ脆弱性が、CAM が使用する Java SE の一部に影響しないようにします。このバージョンの Java SE は CAM でのみ使用されます。ほかのアプリケーションで使用するためにサーバーのデフォルトの場所にインストールされる Java SE とは異なります。

Web ブラウザなど、CAM 管理ホストで実行されるほかのアプリケーションで使用するために更新された Java SE は、ユーザーがインストールします。詳細は、前述

の「Oracle Security Alert」を参照してください。ユーザーは、「Java Plug-in and Applet Architecture」(http://docs.oracle.com/javase/6/docs/technotes/guides/jweb/applet/applet_execution.html)に記載されている Java 配備プロパティファイルをチェックすることで、更新済み Java SE をブラウザが実行していることを確認できます。

オプションの上級機能のライセンス

ライセンスを購入して使用できる、さまざまな上級機能があります。アレイの上級機能については、使用しているアレイの『ご使用にあたって』を参照してください。

ライセンスを注文すると、その機能をアクティブにする方法の説明とともにライセンスが送付されます。詳細は、オンラインヘルプページまたは『Sun Storage Common Array Manager Array 管理ガイド』で次のトピックを検索してください。

- ライセンス機能について
- ライセンスの追加
- ライセンスの管理

90 日間評価ライセンス

次の上級機能ライセンスは、90 日の評価期間中有効です。

- 2530-M2 および 2540-M2 アレイのパフォーマンスエンハンサー
- 2540-M2 アレイのデータ複製

評価期間の終了後、Oracle ストア (https://oraclestore.oracle.com/OA_HTML/ibeCZzdMinisites.jsp?a=b) から、またはオラクルの販売担当者に連絡することで、ライセンスを購入できます。

パフォーマンスエンハンサーおよびデータ複製の詳細は、オンラインヘルプまたは『Sun Storage Common Array Manager Array 管理ガイド』を参照してください。

システム要件

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアのシステム要件を、次のセクションで説明しています。

- 9 ページの「サポートされるアレイ」
- 9 ページの「サポートされる Web ブラウザ」
- 10 ページの「サポートされる言語」
- 10 ページの「パッチ」

- 11 ページの「サポートされるオペレーティングシステム」

サポートされるアレイ

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアでは、次の Sun ストレージシステムがサポートされています。

- Sun Storage 6180 アレイ
- Sun Storage 6580 アレイ
- Sun Storage 6780 アレイ
- StorEdge 6130 アレイ
- StorageTek 6540 アレイ
- StorageTek 6140 アレイ
- Sun Storage 2530-M2 アレイ
- Sun Storage 2540-M2 アレイ
- StorageTek 2510 アレイ
- StorageTek 2530 アレイ
- StorageTek 2540 アレイ
- StorageTek FLX380 アレイ
- StorageTek FLX280 アレイ
- StorageTek FLX240 アレイ
- Sun Storage F5100 フラッシュアレイ
- Sun Storage J4200 アレイ
- Sun Storage J4400 アレイ
- Sun Storage J4500 アレイ
- Sun Blade 6000 ディスクモジュール
- Sun Blade 6000 Multi-Fabric Network Express Module
- Sun Blade 6000 10GbE Multi-Fabric Network Express Module
- Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE Network Express Module

サポートされる Web ブラウザ

表 1-3 サポートされる Web ブラウザ

ブラウザ	サポートされるバージョン
Firefox	3.0 以降
Microsoft Internet Explorer	9.0、8.0

ブラウザのパフォーマンスのためのベストプラクティス

ブラウザのパフォーマンスを改善するには、次のようにします。

- ポップアップウィンドウを有効にします。
- ブラウザがハングアップ、タイムアウト、またはエラーメッセージを生成する可能性がある状況を回避するために、Sun Storage Common Array Manager ホストのプロキシを指定しません。「設定」>「詳細」>「プロキシ」(または使用しているブラウザでこれに類似するメニュー)を選択して、Sun Storage Common Array Manager の管理ホスト名を「プロキシなしのホスト」セクションに加えます。
- Firefox の最近のバージョンでは、認証ページを開く前に、セキュリティ証明書を受け入れて追加するように求められる場合があります。

サポートされる言語

ロケールはインストールの一部であるため、該当するパッチ以外にほかのソフトウェアをダウンロードする必要はありません。

Solaris、Linux、および Windows では、ブラウザユーザーインターフェース (BUI) は、次の言語で使用できます。

- 英語
- フランス語
- 日本語
- 簡体字中国語

コマンド行インターフェース (CLI) は次の言語で使用できます。

- 英語

オンラインヘルプは次の言語に対応しています。

- 英語
- 簡体字中国語
- 日本語

マニュアルページは次の言語に対応しています。

- 英語
- 日本語

パッチ

パッチのダウンロードについては、[6 ページの「ソフトウェアの入手方法」](#)を参照してください。

Solaris を使用している場合、パッチを入手するには、Solaris 10 Update 9 をインストールします。

mpt_sas ドライバには次のパッチが必要です。

- Oracle Solaris 10 10/09 とパッチ 142676-02
- Oracle Solaris 10 10/09 とパッチ 143523-02

mpt_sas ドライバには次の Solaris 10 Update も必要です。

- Oracle Solaris 10 09/10 Update 9

LSI HBA パッケージについては、<http://www.lsi.com/support/sun> を参照してください。

サポートされるオペレーティングシステム

表 1-4 管理ホストのオペレーティングシステムのサポート

オペレーティングシステム	OS のバージョン	注
Solaris OS	Solaris 10 OS U10、U9	
	Solaris 11 Express 2010.11	Sun Storage F5100 アレイでのみサポート
Linux	Oracle Linux 6.0、5.6、および 5.5	カーネルオプションとして UEK をサポート。 Oracle Linux 6.0 ホストに CAM をインストールする前に、『Sun Storage Common Array Manager インストールおよび設定ガイド』の「Linux 6.0 OS の要件」セクションに一覧表示されているパッケージをインストールする必要があります。
	Red Hat Enterprise Linux 6.0、5.6、5.5	Red Hat Enterprise Linux 6.0 ホストに CAM をインストールする前に、『Sun Storage Common Array Manager インストールおよび設定ガイド』の「Linux 6.0 OS の要件」セクションに一覧表示されているパッケージをインストールする必要があります。
	SUSE Linux Enterprise Server 11.1 SP1 および 10.4 SP3	
Oracle VM	Oracle VM 2.2.2	管理ホスト (帯域外) でのみサポート

表 1-4 管理ホストのオペレーティングシステムのサポート (続き)

オペレーティングシステム	OS のバージョン	注
Windows	Windows Server 2008 R2 SP2	
	Windows 2003 R2 SP2	32 ビットおよび 64 ビットの両方をサポート
	Windows XP Pro SP3	管理ホスト (帯域外) でのみサポート
	Windows 7	管理ホスト (帯域外) でのみサポート

ドキュメント

ハードウェアの情報については、そのアレイのリリースノートおよび、ハードウェア設置ガイドを参照してください。

オンラインヘルプとマニュアルページは、Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアに組み込まれています。

ドキュメントは <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/disk-device-194280.html> で検索できます。

表 1-5 Sun Storage Common Array Manager 関連ドキュメント

Sun Storage Common Array Manager 関連のドキュメント
Sun Storage Common Array Manager クイックスタートガイド
Sun Storage Common Array Manager インストールおよび設定ガイド
Sun Storage Common Array Manager の CLI に関するガイド
サポートされているアレイに関するドキュメント
Sun Storage Common Array Manager のベースラインファームウェアに関するリファレンス
Sun Storage F5100 フラッシュアレイのドキュメント(『ご使用にあたって』など)
Sun Storage J4200 アレイのドキュメント(『ご使用にあたって』など)
Sun Storage J4400 アレイのドキュメント(『ご使用にあたって』など)
Sun Storage J4500 アレイのドキュメント(『ご使用にあたって』など)
SAS-1/SAS-2 の互換性に関するアップグレードガイド
Sun Blade 6000 ディスクモジュールのドキュメント(『ご使用にあたって』など)
Sun Storage 2500-M2 アレイのドキュメント(『ご使用にあたって』など)
Sun StorageTek 2500 シリーズアレイご使用の手引

表 1-5 Sun Storage Common Array Manager 関連ドキュメント (続き)

Sun Storage Common Array Manager 関連のドキュメント

Sun StorageTek 2500 シリーズアレイ ご使用にあたって

Sun StorageTek 2500 Arrays に関するファームウェアアップグレードガイド

アレイのリリースノート

Sun Storage 6580 および 6780 アレイハードウェア設置ガイド

Sun Storage 6580 および 6780 ラック型アレイ ご使用の手引き

Sun StorageTek MPIO デバイス固有モジュールインストールガイド Microsoft Windows OS プラットフォーム用

Sun StorageTek RDAC フェイルオーバードライバインストールガイド Linux OS 用

Uniform Command-Line Interface に関するユーザーズガイド

ファームウェア

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアとともに配布されるファームウェアは、「ファームウェアのベースラインをインストール」機能を使用してインストールできます。ただし、ファームウェアのリリースを別のメジャーリリースへと移行する際には、特別な手順が必要となる場合があります。

アップグレードを試行して失敗した場合は、<https://support.oracle.com> の My Oracle Support にお問い合わせください。

コントローラ、NVS RAM、IOM、ディスクドライブ、ファームウェアファイル名など、ベースラインファームウェアの情報は、『Sun Storage Common Array Software Baseline Firmware Reference』を参照してください。

2500 アレイのアップグレード

25xx アレイの場合、バージョン 06.xx.xx.xx から 07.xx.xx.xx へのアップグレードには特別なユーティリティが必要です。My Oracle Support で、ドキュメント『Procedure to Upgrade the Sun StorageTek 2500 Series Array Controller Firmware from 06.xx to 07.xx』(ドキュメント ID 1319254.1) を参照してください。ユーティリティをアップグレードするためのリンクと、『Sun StorageTek 2500 Array Series Firmware Upgrade Guide (820-6362)』へのリンクが含まれています。

VMware ESX 4.1 の 2500 アレイのサポート (ファームウェア 07.35.55.10 以降)

ファームウェアのバージョン 07.35.55.10 がインストールされている StorageTek 2540 アレイのデータホストプラットフォームとして、VMware ESX 4.1 がサポートされています。対応する ESXi のバージョン 4.1 も、このファームウェアバージョンでサポートされます。このサポートについては、最新の『Sun StorageTek 2500 Series Array Release Notes, Release 1.4』には記載されていません。

6540、6140、および FLX380 アレイのアップグレード

バージョン 06.xx.xx.xx から 07.xx.xx.xx へのアップグレードには特別なユーティリティが必要です。My Oracle Support で、ドキュメント『Procedure to Upgradethe Sun StorageTek 6540 Array, 6140 Array or FLX380 Storage Array from Firmware 06.xx to 07.xx』(ドキュメント ID 1131593.1) を参照してください(ユーティリティをアップグレードするためのリンクと、『Sun StorageTek 6000 Series Array Firmware Upgrade Guide』(820-7197)へのリンクが含まれています)。

J4000 アレイ

JBOD のインストールを Sun Storage Common Array Manager version 6.6 以降にアップグレードする前に、HBA (SG-XPCIE8SAS-E-Z) を Phase 14 ファームウェア (1.26.03 以降) にアップグレードすることがベストプラクティスです。これは、SIM ファームウェア 3A53 (J4200) または 3R53 (J4400) を使用する JBOD の検出に関する問題を回避するのに役立ちます。

Sun Blade 6000 ディスクモジュール

ファームウェアのアップグレード手順を開始する前に、ドキュメント『SAS-1/SAS-2 Compatibility Upgrade Guide』を確認してください。このガイドには、正常なファームウェアのアップグレードに必要な情報が記載されています。

Sun Storage F5100 フラッシュアレイに関する注意

- FMod ファームウェアのアップグレード手順では、格納装置の電源を手動で再投入する必要があります。
- SAS2 HBA 接続には 5.04.05 ファームウェアが必要です。これは、工場出荷ユニットにのみインストールされています。CAM を使用して、ファームウェアを 5.3.73 から 5.04.05 にフィールドアップグレードすることはできません。

サポートされる拡張モジュール

次の表は、アレイ構成に追加できる、サポートされている拡張モジュールを示しています。

表 1-6 サポートされる拡張モジュール: 6000 シリーズアレイ

アレイコントローラ	ファームウェア のバージョン	サポートされる拡張 モジュール	IOM コード	
Sun Storage 6180	07.84.44.10	CSM200	98G0	注 - CAM 6.8.1 からの アップグレードで、98E4 IOM コードを使用する CSM200 トレイがある場 合、これらのトレイに 98D6 IOM コードをロード するように指示されます。
Sun Storage 6580、Sun Storage 6780	07.84.44.10	CSM200	98G0	
		CSM100 FC	9682	
		CSM100 iSATA	9728	
StorageTek 6540	06.60.22.10	CSM200	98D6	
		CSM100 FC	9682	
		CSM100 SATA	9728	
		FLA200	9330	
		FLA300	9682	
		FLC200-dSATA	9566	
		FLC200-iSATA	9728	
StorageTek 6540	07.60.63.10	CSM200	98G0	
		CSM100 FC	9682	
		CSM100 SATA	9728	
		FLA200	9330	
		FLA300	9682	
		FLC200-dSATA	9566	
		FLC200-iSATA	9728	

表 1-6 サポートされる拡張モジュール: 6000 シリーズアレイ (続き)

アレイコントローラ	ファームウェア のバージョン	サポートされる拡張 モジュール	IOM コード
StorageTek 6140	06.60.22.10	CSM200	98D6
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLA300	9682
		FLC200-dSATA	9566
		FLC200-iSATA	9728
StorageTek 6140	07.60.63.10	CSM200	98G0
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLA300	9682
		FLC200-dSATA	9566
		FLC200-iSATA	9728
StorEdge 6130	06.60.22.10	CSM200	98D6
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLC200-dSATA	9566

表 1-7 サポートされる拡張モジュール: 2500 シリーズアレイ

アレイコントローラ	ファームウェア	サポートされる拡張モジュール	IOM コード
Sun Storage 2530-M2	07.84.44.10	2501-M2	0366
Sun Storage 2540-M2	07.84.44.10	2501-M2	0366
StorageTek 2510、2530、2540	06.70.54.11	2501 ¹	0199
	07.35.72.10	2501	0199

¹ 単一の 2500 シリーズコントローラトレイには、単一の 2501 拡張モジュールのみ接続できます。

表 1-8 サポートされる拡張モジュール: FLX240、FLX280、および FLX380 アレイ

アレイコントローラ	ファームウェア	サポートされる拡張モジュール	IOM コード
StorageTek FLX240	06.60.22.20	CSM200	98D6
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLA300	9682
		FLC200-dSATA	9566
		FLC200-iSATA	9728
StorageTek FLX280	06.60.22.20	CSM200	98D6
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLA300	9682
		FLC200-dSATA	9566
		FLC200-iSATA	9728
StorageTek FLX380	06.60.22.20	CSM200	98D6
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLA300	9682
		FLC200-dSATA	9566
		FLC200-iSATA	9728

表 1-8 サポートされる拡張モジュール: FLX240、FLX280、および FLX380 アレイ (続き)

アレイコントローラ	ファームウェア	サポートされる拡張モジュール	IOM コード
StorageTek FLX380	07.60.63.10	CSM200	98G0
		CSM100 FC	9682
		CSM100 SATA	9728
		FLA200	9330
		FLA300	9682
		FLC200-dSATA	9566
		FLC200-iSATA	9728

コントローラ、NVRAM、ディスクドライブ、ファームウェアファイル名など、その他のベースラインファームウェアの情報は、『Sun Storage Array Baseline Firmware Reference』を参照してください。

重要な修正

このパッチリリースで提供される重要な修正については、パッチの README ファイルを参照してください。

既知の問題

このセクションでは、既知の問題と推奨の回避策について説明します。

- 18 ページの「アレイに関する問題点」
- 22 ページの「構成に関する問題点」
- 26 ページの「ドキュメントに関する問題点」
- 27 ページの「ファームウェアアップデートに関する問題」
- 29 ページの「インストールとアップグレードに関する問題点」
- 30 ページの「Linux における問題」
- 32 ページの「Solaris に関する問題点」
- 33 ページの「Windows に関する問題」

アレイに関する問題点

ご使用のアレイに関する既知の問題の詳細については、ハードウェアの『ご使用にあたって』を参照してください。

CLIを使用してスナップショットを作成すると失敗する

バグ **15850154**—CLIを使用してスナップショットを作成すると、リソースが見つからないというエラーが発生します。

回避策—GUIを使用してボリュームスナップショットを作成します。オンラインヘルプまたは『Sun Storage Common Array Manager Array 管理ガイド』で「ボリュームスナップショットの構成」を検索してください。

コントローラのスマートバッテリーの交換手順

このスマートバッテリーに関する情報は、CAM Service Advisor の「バッテリーの取り外し/交換」手順の補足です。

スマートバッテリーが取り付けられているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. 「ストレージシステム」>「アレイ名」>「トラブルシューティング」>「FRU」の順に移動します。
2. 「FRUのサマリー」ページで「バッテリー」をクリックします。
3. バッテリーの「コンポーネントのサマリー」ページで、「一意の識別子」列のシリアル番号を確認します。
バッテリーのシリアル番号が「S」から始まっている場合は、スマートバッテリーを表します。
4. 「名前」列で、バッテリー名をクリックします。
バッテリーの「健全性の詳細」ページに、「最後の学習サイクル」フィールドおよび「次の学習サイクル」フィールドが表示されます。バッテリーがスマートバッテリー以外の場合、これらの2つのフィールドは表示されません。
5. スマートバッテリーを交換するときに、Service Advisor の手順に記載されているバッテリーの有効期限のリセットを行う必要はありません。

IPv6 が有効になっていると、登録時にアレイが通信できなくなる

バグ **15744716 (7096012)**—アレイの登録時に、IPv6 ルータブルアドレスが正しく設定されません。CAM ホストとアレイが異なるサブネット上にある場合、ローカルリンクのデフォルト設定のアドレスを使用すると、CAM とアレイが通信できません。

回避策—アレイで IPv4 を有効にするか、CAM ホストとアレイを同じサブネット上に構成します。

CAM で、「ストレージシステム」>「アレイ」>「物理デバイス」>「コントローラ」の順に移動します。「コントローラのサマリー」ページで、IPv6 セクションの下にある「ネットワーク構成の指定」をクリックします。アレイに対する IPv6 の IP アドレス、ルータブル IP アドレス、およびルーター IP アドレスを入手するには、アレイのシリアルポート経由で netCfgShow コマンドを実行します。

キャッシュブロックサイズによる古い入出力のリブート

バグ **15754288 (7110592)**—ファームウェア 07.80.51.10 を使用していて、キャッシュブロックサイズがアプリケーションの入出力のサイズと一致しない場合、古い入出力のリブートが発生することがあります。

回避策—アプリケーションの入出力のサイズを、1つのキャッシュブロックに合うようにします。キャッシュブロックサイズがアプリケーションの入出力のサイズに対して小さすぎる場合、buf_t と呼ばれる内部構造体が足りなくなります。キャッシュブロックサイズを入出力のサイズに合わせると、正しい数の buf_t を利用できるため、古い入出力が回避されます。

キャッシュブロックサイズを設定するには、選択したアレイの「管理」ページに移動します。

ファームウェアリビジョン 07.80.x.x は、次のキャッシュブロックサイズをサポートします。

- 2500-M2: 4K バイト、8K バイト、16K バイト、32K バイト
- 6x80: 4K バイト、8K バイト、16K バイト、32K バイト

6140 アレイの AIX ホストタイプ

バグ **15742788 (7092652)**—CAMBEX DPF フェイルオーバードライバを搭載した AIX ホストのホストタイプ設定は、『Sun StorageTek 6140 アレイリリースノート』に記載されているとおり、AIX ではなく AIX_FO に設定するようにしてください。

バッテリーの期限切れ間近: 06.xx のライトバックキャッシュは無効化されるべきでない

バグ **15668206 (6983826)**—06.xx アレイファームウェアを使用している場合、バッテリーが期限切れ間近になると、ライトバックキャッシュが間違って無効化されます。通常は、バッテリーが期限切れになるときに無効化されます。

解決方法—アレイファームウェアを 07.xx にアップグレードします。13 ページの「ファームウェア」を参照してください。

両方の RAID コントローラが 828.5 日後にリブートする -- 2500/6000 アレイ

Bugs **15583341**、**15640887 (6872995**、**6949589)**—828.5 日の連続操作後、両方の RAID コントローラがリブートします。「vxAbsTicks」と呼ばれるファームウェアのタイマー (vxWorks) は、数字を 0x0000 0000 の形式で保持する 32 ビット (ダブルワード) の整数です。このタイマーが 0xffffffff から 0x00000000 にロールオーバーすると (約 828.5 日後)、ボリュームへのホストの入出力がある場合、関連するドライブは書き込みエラーになります。

元の解決方法—24時間ごとに、ファームウェアは vxworks カーネルのタイミングカウンタの値を確認する「cfgMonitorTask」というタスクを発生させます。ファームウェア 03.xx - 06.60 (6000 シリーズ) を使用するコントローラおよびファームウェア 0.3xx - 6.70 (2500 シリーズ) を使用するコントローラ: カウンタの値が 825 日よりも大きくなると、両方のコントローラがリブートされます。

最終的な解決方法—24時間ごとに、ファームウェアは vxworks カーネルのタイミングカウンタの値を確認する「cfgMonitorTask」というタスクを発生させます。

この修正によってコントローラのリブートが約 5 日に調整されるため、リブートの発生中に生じる影響は、ごくわずかなパフォーマンスの低下だけになります。

ファームウェア 07.15.11.12 以降 (6000 シリーズ) を使用するコントローラおよびファームウェア 07.35.10.10 以降 (2500 シリーズ) を使用するコントローラ: カウンタの値が 820 日よりも大きくなると、コントローラ A がリブートされます。コントローラ B は、カウンタの値が 825 日よりも大きくなるとリブートされます。

Oracle Enterprise Linux 6 のプロキシに JBOD を登録すると、Windows および Linux で通信不能が報告される

バグ 15715109 (7044185)—Windows および Solaris の管理ホストで、通信不能が報告されます。

回避策—JBOD をローカルに登録するか、Solaris 管理ホストを使用して Oracle Enterprise Linux 6 のプロキシを管理します。

大規模な構成で古い入出力が中止されるためにリブートが発生する

バグ 15626618 (6931169)—仮想ディスクに 32 を超えるボリュームが含まれている構成で、ホストの入出力エラーや、タイムアウト期間内に処理されなかった入出力 (たとえば、古い入出力) を検出するコントローラからの内部コントローラのリブートが発生することがあります。

回避策—仮想ディスクの再構成を行う場合は、ホストの入出力を停止するのがベストプラクティスです。こうすることにより、ホストの入出力エラーや、設定処理の完了前に発生する可能性のある内部コントローラのリブートを回避できます。

ボリュームエラー —evShowVol output: Initialization: Not Completed

バグ 15656194 (6969328)—25xx/6xxx アレイのサポートデータにバンドルされている stateCaptureData.dmp ファイルで、「evfShowVol output: Initialization: Not Completed」になっているボリュームが多数あります。

このバグは RAID 5 構成でパフォーマンス上の問題を引き起こします。

回避策—<https://support.oracle.com> でサポート担当者に連絡し、このバグ番号を伝えます。

構成に関する問題点

ASR (Auto Service Request) に CAM を登録する

CAM 6.9 は、オラクルとのフォンホーム通信に新しいトランスポートプロトコルを使用します。CAM 6.9 に更新する前に、Auto Service Request (ASR) から CAM を登録解除し、CAM 6.9 のインストール後に ASR に再登録します。

1. ASR から登録解除するには、CAM にログインし、「一般構成」>「ASR (Auto Service Request)」>「登録解除」に移動します。
2. CAM 6.9 をインストールします。
3. 初期設定で ASR に登録するか、あとで「一般構成」>「ASR (Auto Service Request)」>「ASR (Auto Service Request) の設定」ページで登録できます。
4. ASR を有効化するには、My Oracle Support の Web サイト (<http://support.oracle.com>) を使用します。ASR の有効化の詳細については、CAM のオンラインヘルプで、「Activating ASR with My Oracle Support」のトピックを参照してください。
5. ファイアウォール設定を確認するには、CAM のオンラインヘルプトピック「Client Security」で新しい DTS URL を参照してください。

ASR (Auto Service Request) の補足的な注意事項: DTS リスナーの転送

ファームウェアの更新を実行するとき、または Service Advisor を使用してアレイを保守モードにするときに、次のようなメッセージが CAM のイベントログに表示されることがあります。

```
Nov 3, 2011 10:32:34 AM com.sun.storage.cam.service.notif.asr.dts.DTSListener
transferAttemptFailed SEVERE: Message transfer attempt failed: HTTP Error: 404
Not found Queue not found Nov 3, 2011 10:32:34 AM
com.sun.storage.cam.service.notif.asr.dts.DTSListener transferAttemptFailed
SEVERE: Retrying... Time To Live in milliseconds = 960
```

```
Nov 3, 2011 10:32:34 AM com.sun.storage.cam.service.notif.asr.dts.DTSListener
messageSendFailed SEVERE: Failed to send message.
```

CAM の操作には影響しないため、これらのメッセージは無視してかまいません。詳細については、ナレッジ記事 1381185.1 を参照してください。

アレイを完全リセットしてもアレイ名が変更されない

バグ **15774381 (7147538)** — 「管理」 ページからアレイの完全リセットを実行しても、CAM アレイ名がラベルなしに変更されません (前のリリースでは変更されました)。

回避策—アレイ名を設定するには、「管理」 ページに移動して「保存」 をクリックします。

クリティカル以上のイベントに対する電子メール通知が送信されない

バグ **15750331 (7104329)** — 「クリティカル」 および「ダウン」 アラームの電子メール通知を構成しても、電子メール通知が予期したとおりに送信されません。

回避策—アレイで発生するメジャーイベントの詳細については、「アラームのサマリー」 ページおよび「イベントの詳細」 ページを参照してください。

アクセス構成: カスケード構成の J4400 に関する問題

バグ **15621203、15621748、15621899 (6924428、6925163、6925341)** — 自動保存ゾーンテンプレートがインポートを行わない。カスケード構成の J4400 が間違った PHY ポートデータを返す。ゾーンなしでポートに接続されたホストが J4400 のすべてのディスクを確認できます。

回避策—J4400 アレイのカスケードには「HostOrSimLinkIn」 ポートのみを使用します。

アクセス構成: Sun Storage 6Gb SAS HBA - OS がハングアップする

バグ **15640353 (6948920)** — 両方の 6G バイト SAS ポートが単一のエクспанダに接続されている場合、X8 ワイドポートが生じます。単一ゾーンのドメインにデュアルポートがある場合、OS がハングアップします。この構成は無効です。

回避策—アクセス構成のゾーン作成で、X8 ワイドポート構成を無効にします。

アクセス構成がエラー「java.util.HashMap cannot be cast to java.util.Properties」で失敗する

バグ **15624460 (6928490)** — このエラーは、ホストへのデュアルパス (1 つは SIM0 ドメインに接続された HBA、もう 1 つは SIM1 に接続された同じホストの HBA) を持つ、カスケード構成の J4200 および J4400 アレイの構成で確認されています。

回避策—操作をやり直してください。

アクセス構成: ゾーン化されていない SAS2 ワイドポート集約 FRU レポート表示 - F5100 + 6Gbps の HBA

バグ 15649467 (6960746)—ゾーン機能が無効化されている単一の SAS ドメインに両方の HBA ポートを接続した構成のレポートに、次のような FRU のレポートの問題が表示されます。

- Chassis.00 FRU のレポート: 接続されている 2 つのエクспанダ 1 ポート 0 のケーブルステータスフィールドのうち、1 つのフィールドがレポートに表示されない。
- Chassis.00 FRU のレポート: 2 番目に接続されているポート、エクспанダ 1 ポート 1 のケーブルステータスが機能縮退と表示される。
- アクセス構成ページにポート 0 がない。

HBA の両方のポートを、同一の F5100 エクспанダに接続すると、「ワイドポート」(8 PHY) になります。Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアでは、集約した接続を、単一の論理 SAS ポートとしてモデル化します。「アクセス構成のサマリー」ページには、英数字でソートして順位の高い接続ポートの情報が表示されるだけです。たとえば、ポート 0 とポート 2 が同じエクспанダに接続されている場合、ポート 2 のみ表示されます。

この問題は、ポートオプションのコネクタリストに単一のエントリが表示される CLI でも発生します。

ワイドポートのアドレス指定は、ほかの形式も有効です。ポートの SAS アドレスを使用できます。この場合、2 つの HBA コネクタの 8 つの PHY すべてに対して単一のアドレスが提供されます。

アレイのロックキーは、構成ファイルをインポートする前に設定されている必要があります。

インポートする構成ファイルにセキュリティ保護されたボリュームが含まれている場合、インポートする前に、アレイのロックキーを設定する必要があります。セキュリティ保護されたボリュームが検出されたが、アレイロックキーが設定されていない場合、インポートの検証手順は失敗します。インポートジョブは開始されず、ターゲットアレイ上の設定は変更されません。

J4200 に挿入されたディスクドライブに対して ComponentInsertEvent が生成されない

バグ 15644125 (6953638)—J4200 にディスクドライブを挿入しても ComponentInsertEvent が生成されず、イベントログにも記録されません。ValueChangeEvents (たとえば、スロット x のディスクに対し、「Status」に加えて、「削除済み」から「OK」に変更) のみが生成されます。

「現在のジョブ」ページを表示するのに5分以上かかる

バグ **15582215 (6871197)**—1023 個のボリュームコピーを持つ Sun Storage 6180 アレイでは、「現在のジョブ」ページの表示に5分以上を要します。

回避策—「現在のジョブ」ページを再度クリックすると、ページがより迅速に表示されます。

エクспанダファームウェア 5.3.73 では SAS ゾーングループが維持されない

Sun Storage F5100 フラッシュアレイのエクспанダファームウェア 5.3.73 は、イニシエータの SAS アドレスが変更になった場合、SAS ゾーングループを維持しません。イニシエータの SAS アドレス変更は、ホストがリブートされたこと、または新しいイニシエータが以前にゾーン分けされていた F5100 のポートに差し込まれたことが原因で発生する可能性があります。SAS アドレスを変更すると、Sun Storage Common Array Manager はイニシエータとデバイスが関連付けられていると報告します。しかし実際には、F5100 のエクспанダは、ホストとゾーン分けされたデバイスを分離しています。これにより、ホストは、ゾーン分けされたデバイスにアクセスできなくなります。

回避策—新しいイニシエータのアドレスを既存のデバイスと再ゾーン化し、新しいホストのイニシエータをターゲットデバイスに関連付けます。この問題は F5100 のエクспанダファームウェア 5.4.4 で修正されます。

プライマリボリュームが失敗した場合に、複製のステータスの表示が正しく表示されない

バグ **15399510 (6561709)**—複製セット (6xxx アレイ) のプライマリボリュームが失敗すると、管理ソフトウェアが誤ってボリュームが複製中であると表示する場合があります。

サービスアドバイザ:デュアルパス構成の不良 SIM の交換

カスケード構成の JBOD を持つゾーン内のホストへのデュアルパスがあり、不良 SIM を交換する必要がある場合、新しい SIM に SAS ケーブルを差し込むと問題が発生することがあります。これは、新しい SIM がゾーン化されておらず、古いゾーンが復元されるまで、すべてのホストがすべてのディスクを参照するためです。

回避策—不良 SIM を交換する前に、デュアルパス構成の場合でも、すべての入出力を停止します。新しい SIM を挿入するときに、入出力の停止が必要なファームウェアをアップグレードする必要があります。不良 SIM を交換する前にこの手順を行うと、以降の入出力を試みる前に新しい SIM を再ゾーン化できます。

単一ページのウィンドウからボリュームが削除されない

バグ **15542935 (6807053)**—「単一ページ内でデータを表示する」オプションで「ボリュームのサマリー」ページからボリュームを削除することができません。複数のボリュームを削除したあと、「ボリュームのサマリー」ページに以前と同じボリューム数が表示されます。

回避策—ページ分けされた表示を使用してボリュームを削除します。

セカンダリアレイ上のパートナー複製セットの削除に失敗する

バグ **15723678 (7057616)**—CLI または GUI を使用して複製セットを削除するときに、複製の一部になっているコントローラに停止しているポートがあると、セカンダリアレイ上のパートナー複製セットが削除されません。

回避策—セカンダリアレイに移動して、パートナー複製セットをアレイから削除します。

ドキュメントに関する問題点

CLI ガイドの **sscs add notification** に関する説明が間違っている

バグ **15798792 (7177830)**—CAM CLI ガイド (http://docs.oracle.com/cd/E24008_01/pdf/E24015.pdf) の 32 ページの **sscs add notification** コマンドが、デフォルトですべてのアラートが送信されると間違って記載されています。

回避策—デフォルトでは、アラートタイプが「clear」の場合に送信されます。テキストを次のように変更してください。

-m,--alarm-level <down|critical|major|minor>

最小の優先順位レベルのアラートが送信されるように指定します。デフォルトでは、タイプが「clear」のアラートが送信されます。

2500 シリーズの『ご使用にあたって』: 単一構成と二重構成

『Sun StorageTek 2500 Series Array Release Notes, Release 1.4』のドキュメントで、1 ページと 21 ページの StorageTek 2501 拡張モジュールの単一構成と二重構成に関する情報に矛盾があります。正しくは、単一の **2500** シリーズコントローラトレイには、単一の **2501** 拡張モジュールのみ接続できます。

オンラインヘルプのロックされたディスクに関する説明が正しくない

バグ **15772650 (7145187)**—「ディスクの詳細」 > 「ロックされたディスク」のフィールドの説明が正しくありません。

訂正—データ暗号化サービスをサポートしているディスクの場合、値 True は、このディスクがロックされていて、読み取りまたは書き込み操作を受け入れられないことを意味します。「偽」は、ディスクがロックされていないことを示します。

ファームウェアアップデートに関する問題

ファームウェアに関する重要な問題の修正については、[18 ページ](#)の「[重要な修正](#)」を参照してください。

J4200/J4400 アレイのファームウェアのアップグレードが失敗し、「FWR_UPGRADE_FAILURE,6」というエラー」が表示される

バグ **15582208**、**15617124**、**15621944 (6871188, 6919285, 6925388)**—x6250 ブレードに接続されている J4200/J4400 のファームウェアのアップグレードが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。

Error upgrading firmwareCheck the following error message and array alarm page for possible problems. flash firmware image failed FWR_UPGRADE_FAILURE,6

JBOD 上のファームウェアが 3R21 のままで、すべてのディスクが同じファームウェアレベルのままです。

回避策—これと同じ現象が SUSE Linux ホストで見られることがあり、J4400 SIM のアップグレードが、場合によって SIM ファームウェアの不一致により、リターンコード 6 で失敗しますが、これには次の 2 つの回避策が考えられます。

- ファームウェアの不一致以外でアップグレードに失敗した場合、次を行います。
アレイの電源を切ってすぐに入れ直し、ファームウェアのアップグレードウィザード (GUI) に戻ります。
- ファームウェアの不一致によってアップグレードに失敗した場合、次を行います。
アレイの電源を切ってすぐに入れ直し、次の CLI コマンドのいずれかを使用してファームウェアアップグレードに戻ります。

```
sscs modify -a <array-name> -f -t sim -o -w firmware
```

または

```
csmervice -i -a <array-name> -f -t sim -o -w
```

J4400 SATA ドライブでファームウェアのアップグレードが失敗する

バグ **15633465 (6939824)**—J4400 のアップグレード時に SATA ディスクのファームウェアアップグレードに失敗します。

回避策—アップグレード前に、関係するディスクを別のスロットに移動すると、それらは機能低下状態ではなくなります。

エクспанダとディスクと一緒にアップグレードすると、ファームウェアアップグレードに失敗する

バグ **15614975 (6916355)**—エクспанダとディスクファームウェアを同時にアップグレードしようとするエラーが発生します。

回避策—アレイの電源を切ってすぐに入れ直し、ファームウェアのインストールウィザードを再実行します。そのあとで、ディスクドライブのファームウェアのアップグレードを再開します。

エージェントを実行するまで **GUI** にはファームウェアのアップグレードが認識されない

バグ **15583664 (6873568)**—ファームウェアのアップグレード後、CAM の GUI が正しいバージョンに更新されません。

回避策—エージェントが実行されるまで 5 分ほど待機するか、エージェントを手動で実行します。

Sun Blade 6000 ファームウェアアップグレードエラー: **No such expander - 50800200006deabf SIGSEGV in Linux libSTORARC.so**

バグ **15643397 (6952753)**—Sun Blade 6000 のファームウェアのアップグレード中に、次のエラーが報告されます。

No such expander - 50800200006deabf SIGSEGV in Linux libSTORARC.so

回避策—Adaptec 以外の HBA を使用します (SAS コントローラを使用したブレード混在環境)。

Sun Blade 6000 ファームウェアアップグレードが、エクспанダのレベル低下により失敗する

バグ **15639625 (6948014)**—関連付けられている NEM が最新のリビジョンレベルでない場合、Sun Blade 6000 のファームウェアのアップグレードに失敗します。

回避策—NEM (Network Expansion Module) および Sun Blade 6000 ディスクモジュールにアップグレードのフラグが付いた場合、NEM から先にアップグレードを実行します。その次に Sun Blade 6000 ディスクモジュールストレージのアップグレード処理を行います。詳細については、『*SAS Compatibility Firmware Guide*』を参照してください。

Sun Blade 6250 および 6270 ネットワーク拡張モジュールのアップグレードが失敗する

バグ **15653326 (6965677)**—CAM で、NEM エクスパンダのアップグレードが正常に完了したことがレポートされます。更新されたファームウェアが GUI に反映されていません。

回避策—アップグレードを再試行するか(数回行う必要がある)、Adaptec 以外の HBA を使用してください。

インストールとアップグレードに関する問題点

2510 コントローラおよびドライブファームウェアのアップグレード時にエラーが発生する

バグ **15713795**、**15771749 (7042337, 7143862)**—StorageTek 2510 アレイのアップグレードコントローラおよびドライブファームウェアをアップグレードすると、アップグレードが失敗し、インストールウィザードにファームウェアアップグレードエラーが表示されます。

回避策—2つの手順でアップグレードを実行します。最初に、コントローラファームウェアのみをアップグレードしてから、ドライブファームウェアをアップグレードします。

SUSE 10.3 32 ホスト (32 ビットおよび 64 ビット) でインストールに失敗する

バグ **15755131 (7112028)**—次のエラーが表示され、CAM のインストールが失敗します。

```
The package jdk- did not install successfully.
```

回避策—`uninstall -f` を実行してから、CAM ソフトウェアを再インストールします。jdk はアンインストール時に削除されるため、手動で削除する必要はありません。

上級機能に関する問題

2500-M2 のパフォーマンスエンハンサー

バグ **15820643**—パフォーマンスエンハンサーの「試用」または「評価」オプションでは、評価設定を無効にすることは許可されません。

回避策—試用ライセンスを恒久ライセンスに置き換えるか、評価期間の有効期限になるまで待ちます。

CLIを使用して試用ライセンスを有効にする

バグ **15874509**—CLI を使用して試用または評価ライセンスを有効にするには、`sscs` コマンドを使用してシステムにログインし、`sscs enable --help license` を発行してコマンド形式を表示します。

コマンド `sscs enable -a <arrayName> -e <FeatureName> license'` を入力します (<FeatureName> は、PerformanceEnhancer または ReplicationSet です)。

Linux における問題

注 - Oracle Enterprise Linux 6.0 または Red Hat Enterprise Linux 6.0 に CAM をインストールする前に、『Sun Storage Common Array Manager インストールおよび設定ガイド』の「Linux 6.0 OS の要件」セクションに一覧表示されているパッケージをインストールする必要があります。

SUSE11.1 の `innservjexec init.d` スクリプトで「**Require-Stop**」が動作しない

バグ **15692963 (7013981)**—`/etc/init.d/jexec` スクリプト内に「Require-Stop」用の依存ブートシーケンス LSB コメントがありません。現在、管理者が RPMS、HBA 管理アプリケーション、フェイルオーバー RDAC パッケージなど、関連のないその他の製品をインストールすると、常に警告が生成されます。

回避策—`/etc/init.d/jexec` に次の行を追加します。

```
# Required-Stop: $local_fs
```

SUSE11 の CAM に無効なパスワードでログインする

バグ **15611581 (6911829)**—SUSE11 で CAM にログインするときに無効なパスワードを入力すると、有効なパスワードを入力してもログインプロセスが機能しません。

回避策—ブラウザを一度閉じてから再度開き、正しいパスワードを使用して CAM にログインします。

SATA ドライブの追加や削除にはホストのブートが必要

バグ **15559493 (6835314)**—RedHat 5.2 と SUSE 10 の両方で Linux kernel:mptbase(Abort) が発生します。

SATA ドライブを Linux ホストに追加したり Linux ホストから削除したりすると、次のメッセージが表示されます。

```
kernel: mptsas: ioc2: removing sata device: fw_channel 0, fw_id 4, phy 4, sas_addr 0x500163600010a390
```

```
kernel: mptbase: ioc1: LogInfo(0x31120101): Originator={PL}, Code={Abort},
SubCode(0x0101)
```

次のメッセージが表示されることもあります。

```
multipathd: sdd: checker msg is "tur checker reports path is down"
```

通常、(kernel: mptsas) メッセージはゾーン化動作で表示されますが、(kernel: mptbase) メッセージも表示される場合は、リブートしないとホストでドライブを適切に認識できません。

回避策—ホストをリブートします。

Sun Storage J4000 および F5100 フラッシュアレイ - Linux のホットプラグに関する問題点

J4x00/F5100 のホットプラグについては、2つのカテゴリの問題点が確認されています。1つはLinuxホストのリブートが必要になるもの、もう1つはホットプラグがサポートされないものです。これらは、次に示すように、2つのサブセクションに分類されます。

1. ケーブルの再構成やファームウェアのアップグレードなどを行なったあとでアレイまたはそのコンポーネントが認識されない場合は、Linuxホストをリブートする必要があります。
 - StorageTek SAS RAID HBA のホットプラグがサポートされていない
 - Sun StorageTek SAS RAID HBA とレポートが整合しておらず、FRU ディスク情報がない。これは、SAS バスの再走査時に予期される J4x00 の登録時の動作です。
 - Sun Blade 6000 ディスクモジュールでファームウェアのアップグレードが失敗する。
 - J4x00 - B0/B1 側に関連する、登録時およびアップグレード時の名前の問題。
 - J4x00 - Linux での J4x00 の登録 - `sg_map -i` コマンドでエラーが発生すると、コマンドが失敗し、ホストがリブートして `sg_map` がクリアされます。
 - アクセス構成の変更、ケーブルの再構成、ファームウェアのアップグレード、または新しいストレージの追加によってターゲット (ディスクなど) が新しく追加または削除されると、Linux カーネルの既知の問題によって、ホストがハングアップしたり、パニックが発生したりすることがあります。
 - バグ **15498034 (6731595)**—J4200/J4400: Sun StorageTek PCI-Express SAS Host Bus Adapter B3: SUSE 9 SP 4: マルチパス (デバイスマッパー): 代替 SIM で障害が発生すると、ホストがハングアップします。
 - バグ **15498590 (6732411)**—J4200/J4400: Sun StorageTek PCI-Express SAS Host Bus Adapter B3: SLES9SP4: マルチパス: Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアの SIM ファームウェアをアップグレードしたあと、JBOD への通信が切断されます。

- バグ **15525921 (6777089)**—MPT 3.16.00.00 pandora hba SAS ケーブルの挿入、エクspand のリセットまたは電源切断および再投入を行うと、リセットするまで x86 ホストがハングアップします。
 - バグ **15549335 (6817878)**—OS で、プロキシサーバーまでフィルタするゾーンを正しく認識できません。これは Linux ホストに固有の問題です。
 - バグ **15556018 (6830042)**—JBOD エクスパンダファームウェアのアップグレードにより、エクspand のリセットで Linux OS がハングアップすることがあります。
 - バグ **15558198 (6833156)**—1.26.03.00: JBOD で電源の再投入を 2 度行なったあとで、Linux の不明なターゲット fdisk -l および sg_map -i がハングアップします。
2. Sun StorageTek SAS RAID HBA のホットプラグがサポートされていない。一般的な回避策は、ケーブルの構成変更などを行なったら、その都度アレイをリブートすることです。
- バグ **15493007 (6723686)**—J4x00 の不良ディスクドライブ (Sun StorageTek SAS RAID HBA) が報告されません。
 - バグ **15498768 (6732704)**—J4x00 の Windows エージェント (Sun StorageTek SAS RAID HBA) によって 0.0M バイトが報告され、ドライブの FRU に一意の識別子がありません。

Solaris に関する問題点

Veritas DMP またはほかのホストタイプの Solaris

バグ **15840516**—ファームウェアリリース 07.84.44.10 で、ホストタイプが「Solaris (Veritas DMP など)」は有効なホストタイプでなくなりました。

回避策—Veritas と DMP を使用している場合、推奨のホストタイプについては、Veritas サポート (http://www.symantec.com/support/contact_techsupp_static.jsp) を参照してください。 http://www.symantec.com/support/contact_techsupp_static.jsp

システムブート時にエラー「no execute access to opt/SMgr/agent/notifysmagent.sh」が発生する

バグ **15629617 (6934913)**—このエラーは、/opt(SMagent インストールディレクトリ)がルートパーティション以外のディスクパーティション上に作られた場合に発生します。

回避策—その結果、イベント通知はなくなりますが、再走査中に SMagent によってディスクデバイス (UTM ボリューム) が検出されるため、悪影響はありません。notifysmagent.sh スクリプトは SMagent 起動スクリプトと同じディレクトリにあるため、syseventd でも使用できます。

UTM LUN が「Solaris Traffic Manager」で制御される 6000/2500 アレイ

S10U3 以降にアップグレードしたあとに、帯域内管理 UTM LUN が Solaris Traffic Manager (MPxIO) で制御されます。多くの場合、この結果として帯域内管理に失敗することはありませんが、UTM LUN が MPxIO で制御されないようにすることが最良の方法です。

回避策—format inquire コマンドを使用して 8 文字のベンダー ID (VID) と製品 ID を取得します。次の手順に従います。

1. /kernel/drv/scsi_vhci.conf ファイルを編集します。

次の行のようにします。

```
device-type-scsi-options-list = "SUN Universal Xport", "disable-option";
"disable-option" = 0x70000000
```

2. stmsboot -u コマンドを実行します。

表示される要求に対して次のように応答します。

```
WARNING: This operation will require a reboot.
```

```
Do you want to continue? [y/n] (default: y) y
```

変更はシステムをリブートすると有効になります。

```
Reboot the system now? [y/n] (default: y) y
```

Windows に関する問題

CLI を使用したライセンス追加エラー

バグ 15833559—CLI を使用して上級機能ライセンスを追加すると、エラー「not found/read」が発生します。

回避策—GUI を使用してライセンスを追加します。

Windows 2008 R2 SP1 サーバーを使用するとサポートデータが保存されない

バグ 15734264 (7076972)—Windows 2008 R2 SP1 サーバーを使用すると、アプリケーションのサポートデータのファイルを保存できません。アレイのサポートデータを Common Array Manager に収集および保存するには、「アレイ」>「一般構成」>「サポートデータ」を選択します。

回避策—Windows 2008 サーバーで、「暗号化されたページをディスクに保存しない」を無効にします。「ツール」>「インターネットオプション」>「詳細設定」>「セキュリティ」に移動し、「暗号化されたページをディスクに保存しない」の選択を解除します。

サポートへの連絡

<https://support.oracle.com> でサポート担当者にお問い合わせください。